

---

# 明けの春に

都神紗茅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明けの春に

### 【Nコード】

N3629D

### 【作者名】

都神紗茅

### 【あらすじ】

元旦にコナンと蘭が初詣に行った神社でのこと。コナンの一人称になっています。

「たくよ、こう言う日に限って何でこんなに寒いんだよ？ 昨日はむだにあつたかかったのによ。ついてねえな、オレ。」

今日は、蘭と一緒に近所の神社に初詣に来ている。何でおっちゃんはいないかって？ そりゃ、おっちゃんが昨日に酒を飲みすぎて二日酔いになってるからだよ。気持ち悪いから二人で行ってこいつて言っただぜ。元旦からあれじゃあ、今年もおっちゃんはおのままだろうな。

朝早いとは言え、やっぱり元旦だから神社には人が多い。オレは寒いのも嫌だけど、人ごみはもつと嫌いだ。

さいせんを済ませて手をあわせ終えた後、オレたちは列から離れた。オレの願いごとは、当然早く元に戻りたいってことだ。まあ願いごとつつーか、オレはそう言うことは信じない方だけど、蘭をはやく安心させたいしな。

後ろに並んでいたカップルが一緒に何か願いごとをしている。来年は、あの人たちみたいに、工藤新一の姿で蘭とここに……なあんてな。

「やべっ、目があっちゃまった。って、今更そらしてもむただだよな。うん、まあいいか。」

「コナン君は何をお願いしたの？」

身をかがめて、蘭はそう聞いてきた。

そんな蘭は、今日は柔らかそうな白のコートに茶色のチェック柄のマフラーを巻いている。はいている茶色のブーツにはレースのリップンがついていて、たまに吹く冷てえ風でゆらゆらしている。そう

言う、何て言うか、さりげねえ大人っぽさってのがすげえ蘭に似合ってる。

てか、オレ、黙ってるままじゃねえか。

「ボ、ボクは特に何もしてないよ。ら、蘭姉ちゃんは何をお願いしたの？」

「バー口、何むだに焦ってんだよ、オレ。大体、特になんて言葉、ガキは使わねえだろ。ホラ、蘭が何か不思議そうに思ってたような顔してんじゃねえかよ。あーあ、新年そうそうやべえんじゃねえか？」

「わたしは、今年も去年みたいないい年になりますようにってお願いしたよ」

「新一兄ちゃんは？」

「気づいたら即答してた。あーあ、本当にオレは何やってんだか。」

自分から言ったらぜってえおかしいだろーが。

「蘭はまたさつきと同じ顔になった。やっぱりな。何となく予想はついてたけど、どうすっか？ この空気。いつもより余計に寒いってことからかどうかはよく分からねえけど、すんげえいづらい。っーか、もっごまかせねえよな。あきらめっか。」

「バカね、お正月になっても何も連絡してこない推理オタクなんか」

「どうでもいいわよ」

蘭のヤツ、わざわざ両手をオレに向けて否定してる。いつものことだけど、推理オタクは余計だつーの。こっちは好きでこんな姿になってるわけじゃねえんだからよ。

それでも本当は期待してたんだぜ？　もしかしたら、オレがはやく帰ってきますように、って願いごとしてくれたんじゃないかねえかって。結局は、オレの下らねえ空想だつたつーことだけだな。

「コナン君、お守りとか絵馬とか見てこない？」

「あ、うん」

蘭に手をひかれるまま、オレはお守りのおいてある小屋みたいなところに、えっと、名前は何だつたつけ？　まあいいか。そこに連れていかれた。

そこには色とりどりのお守りがおいてあった。表にはその効果の内容、裏にはこの神社の名前が書かれている。オレは『交通安全』のお守りを一回取って、すぐにまた元に戻した。

大量のお守りのとなりに、絵馬やおふだもある。更にそのとなりに、おっと、おみくじじゃねーか。一回百円、よくあたりますか。へえ。

「おみくじ引こうかな。コナン君も引く？」

蘭も丁度オレと同じタイミングで見つけたのか。まあちょっと古い感じがする真っ赤な箱だし、コイツを見つけれんねえ人のほうがめずらしいけどな。

「うん」

「じゃあ、コナン君からどうぞ」

蘭の入れた百円玉が箱の中に落ちた。よっしゃ、引いてやっか。箱の中には細長いおみくじがたくさん入ってる。へえ、けっこうザラザラしてんな。

よし、これにすっか！

「開けてあげよっか？」

「ううん、大丈夫だよ」

お、意外と簡単に開くじゃねえか。つーか、凶かよ。総合運は、えーっと……何ことも報われないことが多い、また災難の多い一年になるでしょう。

うわあ、新年そうそう縁起悪っ。まあいいや。いや、よくはねえけど。もつと細かく見ていくかな。金、使いすぎに注意。対人、あなたの言動で傷つく人あり。勉強、なまける傾向あり。健康、ケガが多いので用心せよ。待ち人、会いたくない人が来る暗示。な、何だこりゃ？ いいことが何も書いてねえじゃねえかよ。ったく、ついてねえ……って、あれ？ よくみて見りゃ、恋愛んところがまあ

いいんじゃないかねえか？ いちずに思えば報われる、って。ふうん、そうか。

蘭のヤツもおみくじを引いたみたいだな。もう広げて字を読んでやがる。何か、顔が赤いような気がするけど？ とにかく、ちよつと見せてもらうか。

「蘭姉ちゃん、見せて」

「うん、いいよ。コナン君のも見せてもらっていい？」

お互いにおみくじを交換した。さてさて、蘭の今年の運はつと。お、大吉じゃねえか。総合運、願いごとが叶ったり、自分の思い通りになることが多いな。へえ、オレのとは大違いだな。さてさて、他の細かい運はどうかな、つと。あ！ 待ち人んとこのこれって、まさかオレ？ 思い続けた待ち人が帰ってくるでしょう。まじ？ やべ、すっげえうれしい。

「蘭姉ちゃん、この待ち人って」

「新一、だといいな」

ちつちやい声だったけど、ちゃんと聞こえたぜ。ぜってえ今年中には元に戻って帰ってくるから、それまで待っていてくれな？

「おみくじ、結んでこよっか」

「さし」

それまで、ずっとそばにいたから。



(後書き)

どうせなら元旦に投稿しろよ！ って声が飛んできそうな作品でした。実は昨日、突発的に一人称が書くたくなつて、その舞台を初詣に決めた次第なんです。それで、前に蘭で一人称は書いたから次はコナンにしてみようと思つたんです。正直、コナンの方が書きやすかったです。口癖が結構あったり、しゃべり方に特徴があるので。初めて書いたときよりは主人公に近づけたと思います。如何でしたか？ そして……そろそろ、投稿が滞っている作品にも手をつけようと思います（ハ・ハヅ 嗚呼、大分個人的な話が多いですね（- -））

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3629d/>

---

明けの春に

2010年10月9日14時52分発行